

令和元年度の大会を振り返って

顧問同士の堅い握手と軽い抱擁。

確かにしたような気がするが、してなかったのか。準決勝で勝った時はどさくさに紛れて選手と確かにした、これもセクハラか。決勝の場面は動揺していて何をしたかはあまり覚えていない。その後、整列、ゲームセット。振り返ってスタンドの応援席へお礼のあいさつ。そして、目から何か勝手に出てくるモノを抑えた。

永かった、ここまで本当に永かった。過去にも東日本に出るまでに言ったセリフ。それ以上に年月を重ねた。

A グラウンドで最後を迎え、表彰式で大旗を受け取る。この光景をどうやって受け入れたら良いのか、初めてのことで落ち着かない。ただただ、本当に嬉しそうに優勝旗を手にする選手達を眺めていた。本当に夢の様な気持ち、地に足が着いていない感覚。何なんだろう。この居心地の悪さは、この瞬間をずっと待ち望んでいたはずなのに。少し経っても実感は湧いてこない。

新聞社の取材として受けた質問に対して、動揺してまともな返答もできない。こういうときにもっともらしいコメントを出せるのも経験値や優勝回数の差なのか。

ソフトボール協会のお偉方に呼び出され、まずインターハイを県代表として頑張ってきて、さらにそのあとは国体の監督としても、選手選考やら大会の宿泊の手配など早速やって欲しいとのことで色々大変なんだなあとと思った。

学校では試合結果を知りたくて、でも、当該者に聞けなくて、ネット等で調べるがまだ情報が上がらない。そんな矢先、関係の保護者から事務室に連絡が届く。南職員室でも準決・決勝が日曜日から月曜日に流れたため、先生方も気が気でない。結果が待ち遠しく、今か今かと留守電にも伝言を入れるが、反応が無い。

着信履歴に気づいて何か問題でもあったのかと、学校にかけたところ、電話口では結果について歓喜の声が上がった。色々な先生方に気にしていただいていることを実感した。

そうこうしているとグラウンドでは選手達が優勝旗を持ちながら、サッカー部が優勝時に行う儀式のように円陣を組み、回りながら歌っている。その後、顧問の胴上げ、続いて監督の胴上げ。グラウンドで胴上げされたのは関東予選で優勝して以来、あの時は保護者中心であったが、今回は選手のみで挙げてもらった。

部員が 40 人を超え、全員試合に出してやりたいと思う親心で、年間の試合はホーム&アウェイで 400 以上の試合をこなした。三年生だけで 19 人となると、時には意見をぶつけ合って泣いたり、同じことで共有したものから何か得たり、様々な困難を乗り越えて、より強固な結束で一つになった。

入学当初からこの代を 2 年間鍛え上げ 3 年次に上を狙う青写真を描いた。しかしそう上手くはいかない。スタート段階では久々の群馬 OP 下位チームトーナメントへ。新人でも準決勝で敗れ、東日本代表決定戦でもタイブレーカーの末負け、東日本さえも逃し、目標の無い冬はひたすらトレーニングに明け暮れた。

二月の寒い時期から練習試合を組んだ。上を目指すために関東の上位校に挑む。徐々に互角、あるいはリードする場面も増えてきて手応えを感じられる様にもなる。

そして迎えた春季大会、新人代表決定戦で敗れた相手に決勝でしかも同じタイブレーカーで勝ち優勝。やっとなつぼみも開きかけた。続く関東予選の決勝も同じ対戦、今回は準優勝に甘んじて共に関東へ出場するが、初戦で敗退。

思えば、過去の悔しい敗戦が本当に糧になっている。

最初のシード権を獲得し、ベスト8へ。

最初のベスト4へ。

最初の関東出場へ。

最初の東日本出場へ。

そして最初の全国総体出場（インターハイ）へ。

何度も挑戦して、何度も強豪校にはじかれ、何度も泣いて、ある時は最終回5点差をひっくり返され、ある時は7回残りあと1アウトから逆転され、何度くじけそうになったか。でも、その負けがあったから今がある。

インターハイの県予選決勝戦は、またしても同じカード。互いに手の内は知り尽くしている。どちらもこれが最後の戦い。

そして勝った。

優勝した。

令和元年度全国高等学校女子ソフトボール選手権大会（インターハイ）は宮崎県日向市で行われた。飛行機で移動して、開会式に感動し、会場に感動する。

試合は0-2で敗れた。負けても良かったと感じられる、ただ、勝てたらもっと良さを感じられたのかもしれない。次は一つでも勝ちたい。そのために今度はインターハイで勝利を目標に励む。そこにはまだ見たことのない美しい光景があるように感じてならない。

今回の出場に際して、色々ご支援・ご協力いただいた関係者に本当に心から感謝を述べたい。また、今後とも前橋育英ソフトボール部の応援をよろしくお願ひしたい。

インターハイ後、新チームと国体関東ブロック予選の準備に入った。新チーム始動が八月になり、他校から出遅れる。選抜チームのポジションやどう戦って関東を抜けるかなどの戦略もままならない。しかし、国体が茨城なのでチャンスともいえる。

初日、群馬県少年女子は神奈川に敗れ、埼玉に勝つ。翌日は、千葉に勝ち、山梨に負け予選通過ならず。結局、国体出場は群馬が負けた神奈川と山梨で、神奈川は本戦でも上位に食い込んだ。この夏は色々な経験をさせてもらった。

新チームはまず夏季大会。今年度は来年度の関東大会群馬県開催を見込んで形式を変える。上位4チーム A グループと B グループのリーグ戦及びトーナメントでベスト4からベスト8までのシードを新人戦へ反映させる方式をとった。しかし、A グループは順位決定が出来ず、インターハイの勝敗がそのまま引き継がれ、第一シードで新人戦の組合せが決まった。

第一シードでは試合順やコートも優先される。県内を勝ち上がり選抜へ行くには四戦四勝し、ベスト4以上のチームと二度対戦する。試合順は第一試合9時開始からと第三試合13時開始、グラウンドは全て A コート。のはずであった。しかし、準決勝で負け代表戦を制して今回は東日本出場をなんとか決めた。冬の目標が出来、先輩はインターハイに出場したが、後輩もまだこれからというところである。

話題を変えるが、先日のラグビー日本代表の活躍を皆さんどう感じたのでしょうか。

体格差や民族・習慣の違い、国柄やプレースタイル、ラグビー精神、プレーそのものも激しさ、勇敢さ、チームのために出来ることをやる、などなど。誰しも感動や勇気など様々な感情を呼び起こしてもらい、応援したくなり、どれだけ準備したのか、なぜ勝てたのか等、多くのことを考えさせられた。ルールが分からなくとも十分魅了され、さらにはスポーツとは何か、スポーツが与える影響など、色々なものを与えてくれた。来年は東京オリンピックが開催される。とりあえず、ソフトボールも復活した。学校のひとつの部活動として活動しているが、勝つことだけが全てではない、負けることの方が多く、負けて学ぶことが多い。そんな活動を通して学校生活を送り、他の高校生はバイトをしたり華やかに過ごす中、泥臭くボールを追いかけて必死に頑張るって体力や精神力の向上を目指して、チームとして個人として成長する。人に感動を与え、応援したくなるような集団でありたいと願う。そんなことを思いながら令和元年のいくつかの大会を振り返った。